

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-165778
(P2024-165778A)

(43)公開日 令和6年11月28日(2024.11.28)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
E 0 6 B 9/01 (2006.01)	E 0 6 B 9/01 G	2 E 0 2 0
E 0 4 F 11/18 (2006.01)	E 0 4 F 11/18	2 E 3 0 1

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全10頁)

(21)出願番号	特願2023-82268(P2023-82268)	(71)出願人	504163612 株式会社 L I X I L 東京都品川区西品川一丁目1番1号 大 崎ガーデンタワー
(22)出願日	令和5年5月18日(2023.5.18)	(74)代理人	100106002 弁理士 正林 真之
		(74)代理人	100165157 弁理士 芝 哲央
		(74)代理人	100126000 弁理士 岩池 満
		(74)代理人	100160794 弁理士 星野 寛明
		(72)発明者	丹羽 新吾 東京都品川区西品川一丁目1番1号 大 崎ガーデンタワー 株式会社 L I X I L 内 最終頁に続く

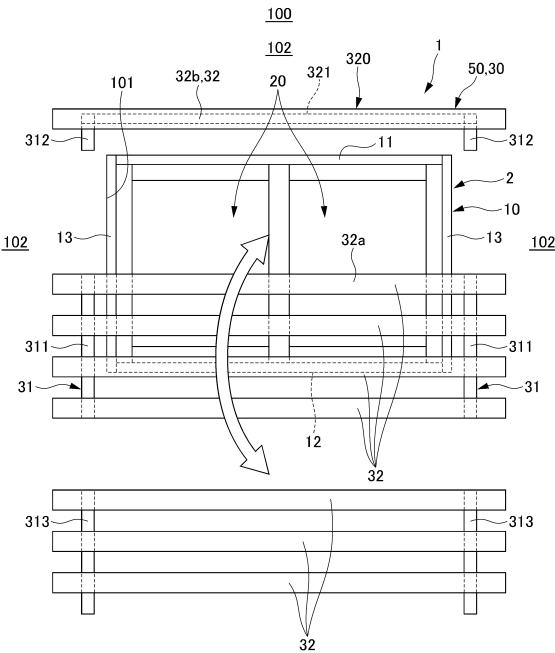
(54)【発明の名称】 建具

(57)【要約】

【課題】建物躯体の開口部の室外側に配置される室外側構造物を備え、室外側構造物を、面格子構造及び手摺構造のいずれにも使用できる建具を提供すること。

【解決手段】建具1は、建物躯体100の開口部101に設けられた窓部2と、建物躯体100の開口部101の室外側X1に配置された室外側構造物30と、を備え、室外側構造物30は、複数の室外側構造物構成部材32を有し、開口部101の上下方向の全域に複数の室外側構造物構成部材32を配置して面格子構造40とする構成と、開口部101の下方側から上方側に向かう途中までの下方領域に複数の室外側構造物構成部材32を配置して手摺構造50とする構成と、に変更可能である。

【選択図】図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

建物躯体の開口部に設けられた窓部と、

前記建物躯体の開口部の室外側に配置された室外側構造物と、を備え、

前記室外側構造物は、複数の室外側構造物構成部材を有し、前記開口部の上下方向の全域に前記複数の室外側構造物構成部材を配置して面格子構造とする構成と、前記開口部の下方側から上方側に向かう途中までの下方領域に前記複数の室外側構造物構成部材を配置して手摺構造とする構成と、に変更可能な建具。

【請求項 2】

前記複数の室外側構造物構成部材は、横方向に延びると共に上下方向に並んで配置される複数の横部材である、請求項 1 に記載の建具。

【請求項 3】

前記開口部の上方領域に配置可能な前記複数の室外側構造物構成部材は、一体化されて構成されており、

前記室外側構造物は、一体化させた前記複数の室外側構造物構成部材を前記開口部の上方領域に取り付けた場合に、前記面格子構造を構成し、一体化させた前記複数の室外側構造物構成部材を前記開口部の上方領域に取り付けない場合に、前記手摺構造を構成する、請求項 1 又は 2 に記載の建具。

【請求項 4】

前記複数の室外側構造物構成部材のうち上端側に配置される室外側構造物構成部材は、前記建物躯体の壁から立ち上がる立ち上がり部材を介して、前記建物躯体の壁に接続されることにより、小庇として機能する、請求項 1 又は 2 に記載の建具。

【請求項 5】

前記複数の室外側構造物構成部材の表面には、同一種類のデザインが施されている、請求項 1 又は 2 に記載の建具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本開示は、建具に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、建物躯体の開口部の室外側に面格子（室外側構造物）を備える建具がある（例えば、特許文献 1 参照）。また、建物躯体の開口部の室外側に手摺り（室外側構造物）を備える建具がある。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】 特開 2003-314162 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

建物躯体の開口部の室外側に、面格子又は手摺りを設置する場合には、それぞれの構成やデザインが異なるため、別々の構造物で構成される。そのため、面格子又は手摺りを設置する場合には、いずれか一方のみしか設置できない。ここで、建物躯体の開口部の室外側に配置される室外側構造物について、面格子を構成する面格子構造及び手摺りを構成する手摺構造のいずれにも使用できれば便利である。

【0005】

本開示は、建物躯体の開口部の室外側に配置される室外側構造物を備え、室外側構造物を、面格子構造及び手摺構造のいずれにも使用できる建具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

本開示は、建物躯体の開口部に設けられた窓部と、前記建物躯体の開口部の室外側に配置された室外側構造物と、を備え、前記室外側構造物は、複数の室外側構造物構成部材を有し、前記開口部の上下方向の全域に前記複数の室外側構造物構成部材を配置して面格子構造とする構成と、前記開口部の下方側から上方側に向かう途中までの下方領域に前記複数の室外側構造物構成部材を配置して手摺構造とする構成と、に変更可能な建具に関する。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 0 7 】

【 図 1 】 面格子構造が設けられた一実施形態の建具を室外側から見た正面図である。

10

【 図 2 】 面格子構造から一体化させた複数の横部材を取り外して手摺構造とした図である。

【 図 3 】 面格子構造が設けられた建具の縦断面図である。

【 図 4 】 面格子構造が設けられた建具の横断面図である。

【 図 5 】 面格子構造から一体化させた複数の横部材を取り外して手摺構造とした縦断面図である。

【 図 6 】 面格子構造を手摺構造とした場合の斜視図である。

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 0 8 】

以下、本開示の一実施形態について、図面を参照しながら詳しく説明する。なお、本明細書において、「見付方向」とは、建物の壁に形成された開口部に納められた窓部における障子のガラスの面方向を意味し、「見込方向」とは、上記ガラスの厚さ方向（すなわち、奥行き方向）を意味する。図面において、窓部の室外側を「室外側 X 1」とし、窓部の室内側を「室内側 X 2」とする。また、横方向を「左右方向」とする。

20

【 0 0 0 9 】

図 1 に示すように、建具 1 は、建物躯体 1 0 0 の開口部 1 0 1 に設けられた窓部 2 と、建物躯体 1 0 0 の開口部 1 0 1 の室外側 X 1 に配置された室外側構造物 3 0 と、を備える。窓部 2 は、開口部 1 0 1 に納められた枠体 1 0 と、枠体 1 0 内に開閉可能に配置される障子 2 0、2 0 と、を有する。

【 0 0 1 0 】

30

枠体 1 0 は、上枠 1 1、下枠 1 2 及び一對の縦枠 1 3 が矩形に枠組みされて構成される。枠体 1 0 の内側には、障子 2 0、2 0 が開閉可能に納められる。

【 0 0 1 1 】

室外側構造物 3 0 は、枠体 1 0 が配置された開口部 1 0 1 の室外側 X 1 に設けられる。室外側構造物 3 0 は、面格子構造 4 0（図 1 参照）と、手摺構造 5 0（図 2 参照）と、に変更可能である。室外側構造物 3 0 は、複数の横部材 3 2（室外側構造物構成部材）を有し、開口部 1 0 1 の上下方向の全域に複数の横部材 3 2 を配置して面格子構造 4 0（面格子）とする構成（図 1 参照）と、開口部 1 0 1 の下方側から上方側に向かう途中までの下方領域に複数の横部材 3 2 を配置して手摺構造 5 0（手摺り）とする構成（図 2 参照）と、に変更可能である。開口部 1 0 1 の上下方向の全域とは、開口部 1 0 1 の全体を覆う領域であって、例えば、開口部 1 0 1 の上端よりも上方側の位置から開口部 1 0 1 の上端よりも下方側の位置までの領域である。以下、開口部 1 0 1 の上下方向の全域を単に「開口部 1 0 1 の全域」ともいう。また、開口部 1 0 1 の下方側から上方側に向かう途中までの下方領域とは、開口部 1 0 1 の下方を覆う領域であって、例えば、開口部 1 0 1 の下端よりも下方の位置から開口部 1 0 1 の上端よりも所定間隔だけ下方の位置までの領域である。以下、開口部 1 0 1 の下方側から上方側に向かう途中までの下方領域を単に「開口部 1 0 1 の下方領域」ともいう。

40

【 0 0 1 2 】

まず、室外側構造物 3 0 を面格子構造 4 0 とした場合について説明する。室外側構造物 3 0 は、図 1 及び図 3 に示すように、一對の縦部材 3 1 と、複数の横部材 3 2（室外側構

50

造物構成部材)と、複数の接続部材 3 3 と、を有する。

【0013】

一对の縦部材 3 1 は、図 1 に示すように、縦方向に延びて形成され、枠体 1 0 の左右方向(横方向)の外側において、壁 1 0 2 の室外側 X 1 の面に固定される。一对の縦部材 3 1 は、それぞれ、上下方向において、3 つの部分に分割される分割構造で構成され、下部縦部材 3 1 1 と、上端支持縦部材 3 1 2 と、上部縦部材 3 1 3 と、を有する。

【0014】

図 3 に示すように、下部縦部材 3 1 1、上部縦部材 3 1 3 及び上端支持縦部材 3 1 2 は、それぞれ、上下方向に直線状に延びる。下部縦部材 3 1 1、上部縦部材 3 1 3 及び上端支持縦部材 3 1 2 は、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の壁 1 0 2 において、下方側から上方側に向けてこの順に直線上に配置される。

10

【0015】

下部縦部材 3 1 1 は、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の壁 1 0 2 において、上下方向の位置が、開口部 1 0 1 よりも下方の位置から開口部 1 0 1 の上下方向の中央付近の位置まで延びる。上端支持縦部材 3 1 2 は、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の壁 1 0 2 において、上下方向の位置が、開口部 1 0 1 の上端付近の位置から開口部 1 0 1 よりも上方側の位置まで延びる。

【0016】

下部縦部材 3 1 1、上端支持縦部材 3 1 2 及び上部縦部材 3 1 3 の室内側 X 2 の端部は、図 4 に示すように、複数のブラケット 3 6 を介して、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の壁 1 0 2 に固定されている。複数のブラケット 3 6 は、図 3 及び図 4 に示すように、断面が L 字状の板状に形成され、上下方向の長さが短いピース状に形成されている。ブラケット 3 6 は、壁 1 0 2 に固定される壁側固定板 3 6 1 と、下部縦部材 3 1 1、上端支持縦部材 3 1 2 及び上部縦部材 3 1 3 の内面に固定される縦部材側固定板 3 6 2 と、を有する。上端支持縦部材 3 1 2 の上端部には、図 3 に示すように、キャップ 3 1 2 a が取り付けられている。下部縦部材 3 1 1 の下端部には、キャップ 3 1 1 a が取り付けられている。

20

【0017】

上部縦部材 3 1 3 は、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の壁 1 0 2 において、下部縦部材 3 1 1 と上端支持縦部材 3 1 2 との間に配置される。上部縦部材 3 1 3 は、上下方向の位置が、開口部 1 0 1 の上下方向の中央付近の位置から上端付近の位置まで延びる。上部縦部材 3 1 3 は、下端部において連結金具 3 4 により下部縦部材 3 1 1 に連結され、上端部において連結金具 3 5 により上端支持縦部材 3 1 2 に連結されている。

30

【0018】

連結金具 3 4、3 5 は、室内外方向に幅を有して上下方向に延びる板状に形成される。連結金具 3 4、3 5 は、下部縦部材 3 1 1、上端支持縦部材 3 1 2 及び上部縦部材 3 1 3 の左右方向の両端部の側面に配置される。

【0019】

連結金具 3 4 は、下部縦部材 3 1 1 及び上部縦部材 3 1 3 の左右方向の両端部の側面において、下部縦部材 3 1 1 の上端と上部縦部材 3 1 3 の下端とに跨って配置され、ネジ 3 4 1 で固定されることにより、下部縦部材 3 1 1 の上端と上部縦部材 3 1 3 の下端とを連結する。連結金具 3 5 は、上部縦部材 3 1 3 及び上端支持縦部材 3 1 2 の左右方向の両端部の側面において、上部縦部材 3 1 3 の上端と上端支持縦部材 3 1 2 の下端に跨って配置され、ネジ 3 5 1 で固定されることにより、上部縦部材 3 1 3 の上端と上端支持縦部材 3 1 2 の下端とを連結する。

40

【0020】

複数の横部材 3 2 は、図 1 及び図 3 に示すように、左右方向(横方向)に延びると共に、枠体 1 0 が配置された開口部 1 0 1 の室外側 X 1 において、所定間隔をあけて、上下方向に並んで配置される。複数の横部材 3 2 は、左右方向に延びると共に、上下方向に並ぶ格子状の面状に形成され、室外側構造物 3 0 は、いわゆる横格子の面格子を構成する。

【0021】

50

本実施形態においては、複数の横部材 3 2 の表面には、同一種類のデザインが施されている。同一種類のデザインとは、例えば、同色のデザインや同じ模様のデザインが含まれることはもちろん、見た目の全体のデザインに統一感がある場合や、見た目の質感が非常に近い場合なども含まれる。複数の横部材 3 2 の表面に同一種類のデザインを施すことにより、室外側構造物 3 0 の全体のデザインの統一を図ることができる。

【0022】

複数の横部材 3 2 は、図 1 に示すように、室外側 X 1 の正面から見た場合に、一对の縦部材 3 1 と交差する部分において、図 3 及び図 4 に示すように、一对の接続部材 3 3 を介して、一对の縦部材 3 1 に接続される。一对の接続部材 3 3 それぞれは、一对の縦部材 3 1 の室外側 X 1 の面それぞれから室外側 X 1 側に立ち上がる。図 3 に示すように、接続部材 3 3 の室内側 X 2 の端部は、縦部材 3 1 の室外側 X 1 の面に接続される。接続部材 3 3 の室外側 X 1 の端部には、横部材 3 2 の室内側 X 2 の面が接続される。複数の接続部材 3 3 は、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の位置に配置されている。

10

【0023】

より具体的には、図 3 に示すように、開口部 1 0 1 の下方領域に配置される複数の横部材 3 2 は、左右方向の両端部側において、一对の接続部材 3 3 の室外側 X 1 の端部に接続される。一对の接続部材 3 3 の室内側 X 2 の端部は、開口部 1 0 1 の下方側において、一对の縦部材 3 1 の下部縦部材 3 1 1 の室外側 X 1 の面に接続される。一对の縦部材 3 1 の下部縦部材 3 1 1 の室内側 X 2 の端部は、図 4 に示すように、ブラケット 3 6 を介して、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の壁 1 0 2 に固定される。これにより、開口部 1 0 1 の下方領域に配置される複数の横部材 3 2 は、一对の接続部材 3 3 を介して、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の壁 1 0 2 に固定された一对の縦部材 3 1 の下部縦部材 3 1 1 に接続される。

20

【0024】

ここで、複数の横部材 3 2 のうち開口部 1 0 1 よりも上方に配置される横部材 3 2 b の周辺の構成について説明する。開口部 1 0 1 よりも上方に配置される横部材 3 2 b は、室外側構造物 3 0 を、面格子構造 4 0 (図 1 参照)とした場合においても、手摺構造 5 0 (図 2 参照)とした場合においても、同様の構成である。そのため、面格子構造 4 0 及び手摺構造 5 0 における開口部 1 0 1 よりも上方に配置される横部材 3 2 b の周辺の構成について、図 5 及び図 6 に示す手摺構造 5 0 を参照しながら説明する。

30

【0025】

図 5 及び図 6 に示すように、複数の横部材 3 2 のうち開口部 1 0 1 よりも上方に配置される横部材 3 2 b は、左右方向の両端部側において、一对の接続部材 3 3 の室外側 X 1 の端部に接続される。一对の接続部材 3 3 の室内側 X 2 の端部は、開口部 1 0 1 よりも上方において、一对の縦部材 3 1 の上端支持縦部材 3 1 2 の室外側 X 1 の面に接続される。一对の縦部材 3 1 の上端支持縦部材 3 1 2 の室内側 X 2 の端部は、ブラケット 3 6 を介して、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の壁 1 0 2 に固定される。これにより、開口部 1 0 1 よりも上方に配置される横部材 3 2 b は、一对の接続部材 3 3 を介して、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の壁 1 0 2 に固定された一对の縦部材 3 1 の上端支持縦部材 3 1 2 に接続される。

40

【0026】

また、図 6 に示すように、一对の接続部材 3 3 の左右方向の間において、開口部 1 0 1 よりも上方に配置される横部材 3 2 b と開口部 1 0 1 の外側の壁 1 0 2 との間には、横部材 3 2 b と壁 1 0 2 との間を埋めるように、壁 1 0 2 から立ち上がると共に左右方向に延びる隙間配置部材 3 2 1 (立ち上がり部材)が配置されている。このように、開口部 1 0 1 よりも上方に配置された横部材 3 2 b (室外側構造物 3 0 の上端側に位置する横部材 3 2 b)は、壁 1 0 2 から立ち上がる上端支持縦部材 3 1 2 (立ち上がり部材)、接続部材 3 3 (立ち上がり部材)及び隙間配置部材 3 2 1 (立ち上がり部材)を介して、壁 1 0 2 に接続されている。これにより、開口部 1 0 1 よりも上方に配置された横部材 3 2 b、当該横部材 3 2 b に接続された接続部材 3 3、上端支持縦部材 3 1 2 及び隙間配置部材 3 2

50

1を、小底320として機能させることができる。

【0027】

また、図3に示すように、面格子構造40において、開口部101の上方領域に配置される複数の横部材32は、左右方向の両端部側において、一对の接続部材33の室外側X1の端部に接続される。一对の接続部材33の室内側X2の端部は、開口部101の上部側において、一对の縦部材31の上部縦部材313の室外側X1の面に接続される。開口部101の上方領域とは、開口部101の上方を覆う領域であって、例えば、開口部101の上端よりも下方側の位置から開口部101の下端よりも所定間隔だけ情報の位置までの領域である。本実施形態において、開口部101の上方領域は、開口部101の全領域から、開口部101の上端を覆う領域と、開口部101の下方領域とを除いた領域である。

10

【0028】

一对の縦部材31の上部縦部材313の室内側X2の端部は、ブラケット36を介して、開口部101の左右方向の外側の壁102に固定される。上部縦部材313は、下端部において連結金具34により下部縦部材311に連結され、上端部において連結金具35により上端支持縦部材312に連結されている。よって、開口部101の上方領域に配置可能な複数の横部材32は、一对の接続部材33及び一对の縦部材31の上部縦部材313により、一体化されて構成されており、一体化された状態で、開口部101の上方領域に取り付けたり、又は、開口部101の上方領域から取り外すことができる。

【0029】

以上の室外側構造物30において、図1及び図3に示す面格子構造40を、図2、図5及び図6に示す手摺構造50に変更することができる。具体的には、図1及び図3に示す面格子構造40において、連結金具34の下部縦部材311側のネジ341を取り外すと共に、連結金具35の上端支持縦部材312側のネジ351を取り外すことで、一体化させた上部縦部材313及び複数の横部材32を開口部101の上方領域から取り外す。これにより、図2、図5及び図6に示すように、開口部101の下方領域に配置される複数の横部材32の最も上部の横部材32aを手摺りとする手摺構造50に変更することができる。

20

【0030】

また、以上の室外側構造物30において、面格子構造40から手摺構造50に変更するのは逆に、図2、図5及び図6に示す手摺構造50を、図1及び図3に示す面格子構造40に変更することもできる。具体的には、図2、図5及び図6に示す手摺構造50において、一体化させた上部縦部材313及び複数の横部材32を開口部101の上方領域に取り付けることで、図1及び図3に示すように、開口部101の上下方向の全域に複数の横部材32を配置した面格子とする面格子構造40に変更することができる。

30

【0031】

このように、一体化させた複数の横部材32を開口部101の上方領域に取り付けた場合に、面格子構造40を構成でき、一体化させた上部縦部材313及び複数の横部材32を開口部101の上方領域から取り外して、一体化させた複数の横部材32を開口部101の上方領域に取り付けない場合に、手摺構造50を構成できる。この場合、複数の横部材32の表面には同一種類のデザインが施されているため、室外側構造物30を面格子構造40とした場合と手摺構造50とした場合とにおいて、デザインの統一を図ることができる。

40

【0032】

また、以上の室外側構造物30では、面格子構造40とした場合と手摺構造50とした場合の両方において、開口部101よりも上方に配置された横部材32b（室外側構造物30の上端側に位置する横部材32b）は、壁102から立ち上がる上端支持縦部材312（立ち上がり部材）、接続部材33（立ち上がり部材）及び隙間配置部材321（立ち上がり部材）を介して、壁102に接続されている。これにより、開口部101よりも上方に配置された横部材32b、当該横部材32bに接続された接続部材33、上端支持縦

50

部材 3 1 2 及び隙間配置部材 3 2 1 を、小庇 3 2 0 として機能させることができる。この小庇 3 2 0 としての機能は、室外側構造物 3 0 を面格子構造 4 0 として構成した場合も手摺構造 5 0 として構成した場合も同様に機能する。

【 0 0 3 3 】

また、以上の室外側構造物 3 0 では、複数の横部材 3 2 が、開口部 1 0 1 の左右方向の外側の位置に配置された複数の接続部材 3 3 を介して、壁 1 0 2 に固定された縦部材 3 1 に接続されている。これにより、複数の横部材 3 2 を建物躯体に接続する接続部分が、開口部 1 0 1 にかからないようになっており、上下方向で連続的に繋がることなく分断されている。よって、当該接続部分が視覚的ノイズになることを抑制することができる。

10

【 0 0 3 4 】

以上説明した本実施形態の建具によれば、以下のような効果を奏する。本実施形態の建具 1 は、建物躯体 1 0 0 の開口部 1 0 1 に設けられた窓部 2 と、建物躯体 1 0 0 の開口部 1 0 1 の室外側 X 1 に配置された室外側構造物 3 0 と、を備え、室外側構造物 3 0 は、複数の横部材 3 2 を有し、開口部 1 0 1 の上下方向の全域に複数の横部材 3 2 を配置して面格子構造 4 0 とする構成と、開口部 1 0 1 の下方側から上方側に向かう途中までの下方領域に複数の横部材 3 2 を配置して手摺構造 5 0 とする構成と、に変更可能である。

【 0 0 3 5 】

これにより、面格子構造 4 0 に使用する複数の横部材 3 2 の一部を、手摺構造 5 0 に使用する複数の横部材 3 2 とすることができるため、室外側構造物 3 0 において、面格子構造 4 0 と手摺構造 5 0 とを相互に容易に変更することができる。よって、室外側構造物 3 0 を、面格子構造 4 0 及び手摺構造 5 0 のいずれにも容易に変更して使用できる。また、室外側構造物 3 0 を面格子構造 4 0 とした場合と手摺構造 5 0 とした場合とにおいて、同一種類のデザインを施した横部材 3 2 を使用した場合に、デザインの統一を図ることができる。

20

【 0 0 3 6 】

また、本実施形態においては、室外側構造物 3 0 は、一体化させた複数の横部材 3 2 を開口部 1 0 1 の上方領域に取り付けた場合に、面格子構造 4 0 を構成し、一体化させた複数の横部材 3 2 を開口部 1 0 1 の上方領域から取り外して、一体化させた複数の横部材 3 2 を開口部 1 0 1 の上方領域に取り付けない場合に、手摺構造 5 0 を構成する。これにより、一体化させた複数の横部材 3 2 を取り付けたり取り外したりすることができるため、複数の横部材 3 2 を一体化させていない場合と比べて、面格子構造 4 0 及び手摺構造 5 0 のいずれにも容易に変更することができる。

30

【 0 0 3 7 】

また、本実施形態においては、複数の横部材 3 2 の表面には、同一種類のデザインが施されている。これにより、室外側構造物 3 0 を面格子構造 4 0 とした場合と手摺構造 5 0 とした場合とにおいて、デザインの統一を図ることができる。

【 0 0 3 8 】

以上、本開示の建具の一実施形態について説明したが、本開示の建具は適宜変更可能である。

40

【 0 0 3 9 】

例えば、本開示の窓部 2 は、上述した 2 枚の障子 2 0 , 2 0 を有するものに制限されず、3 枚以上の障子を有するものであってもよいし、1 枚だけの障子を有する片引き窓を構成するものであってもよい。さらに、窓部は、迂り出し窓や F I X 窓、上げ下げ窓、外倒し窓、内倒し窓、あるいは開き窓を構成するものであってもよい。

【 0 0 4 0 】

前記実施形態においては、室外側構造物 3 0 を、複数の横部材 3 2 を用いて、面格子構造 4 0 又は手摺構造 5 0 を構成したが、これに限定されない。室外側構造物 3 0 を、複数の縦部材や傾斜部材を用いて、面格子構造又は手摺構造を構成してもよいし、複数の他の部材を用いて、面格子構造又は手摺構造を構成してもよい。

50

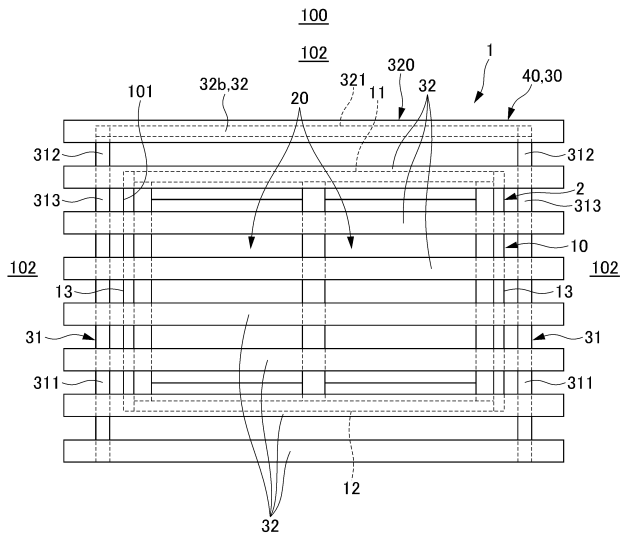
【符号の説明】

【0041】

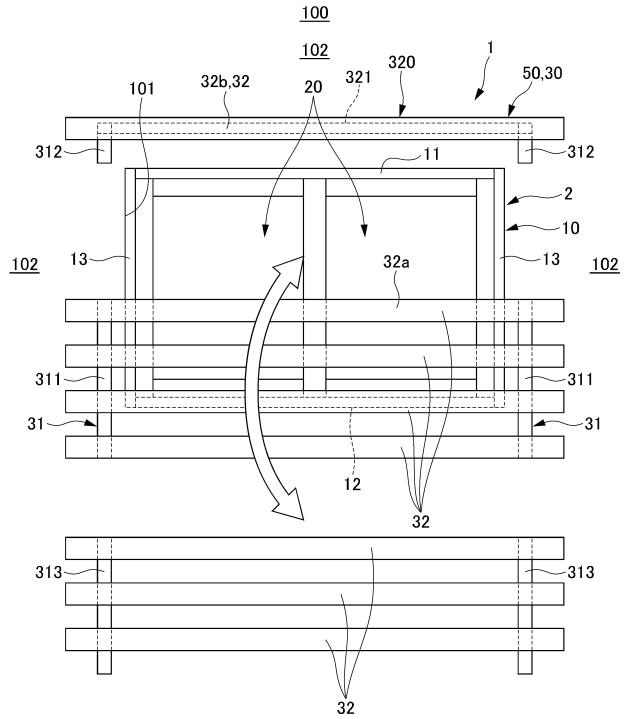
1 建具、2 窓部、30 室外側構造物、33 接続部材（立ち上がり部材）、40 面格子構造、50 手摺構造、32 横部材（室外側構造物構成部材）、100 建物躯体、101 開口部、312 上端支持縦部材（立ち上がり部材）、321 隙間配置部材（立ち上がり部材）

【図面】

【図1】



【図2】



10

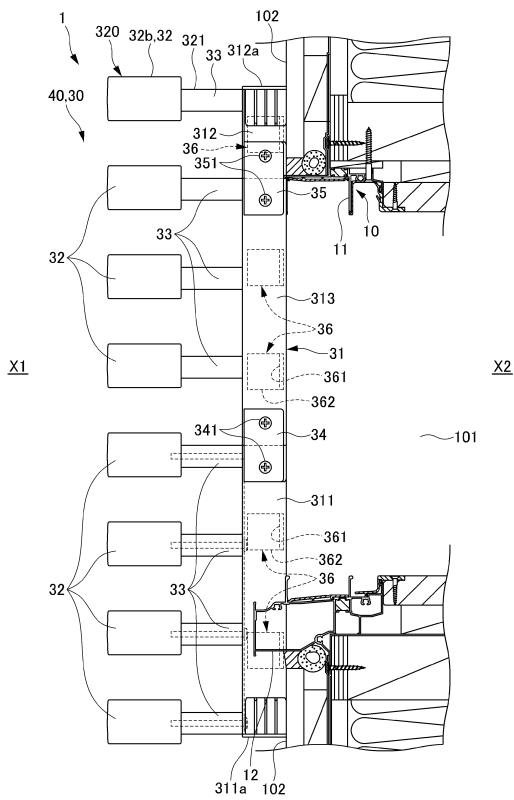
20

30

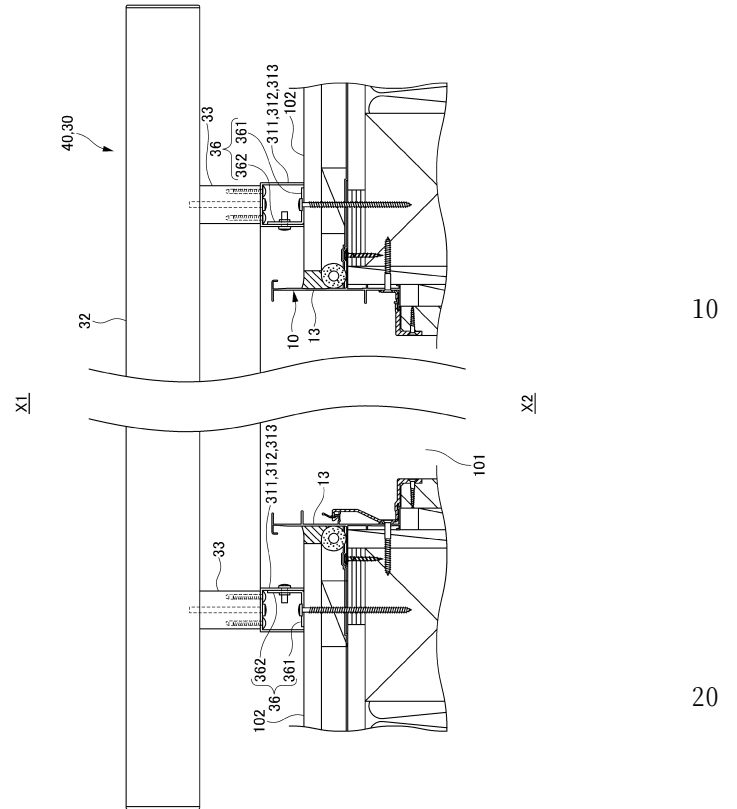
40

50

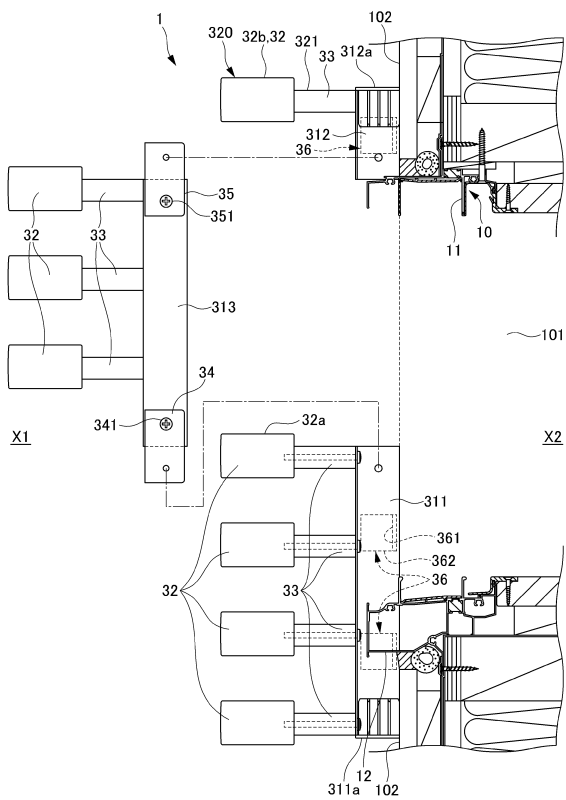
【 図 3 】



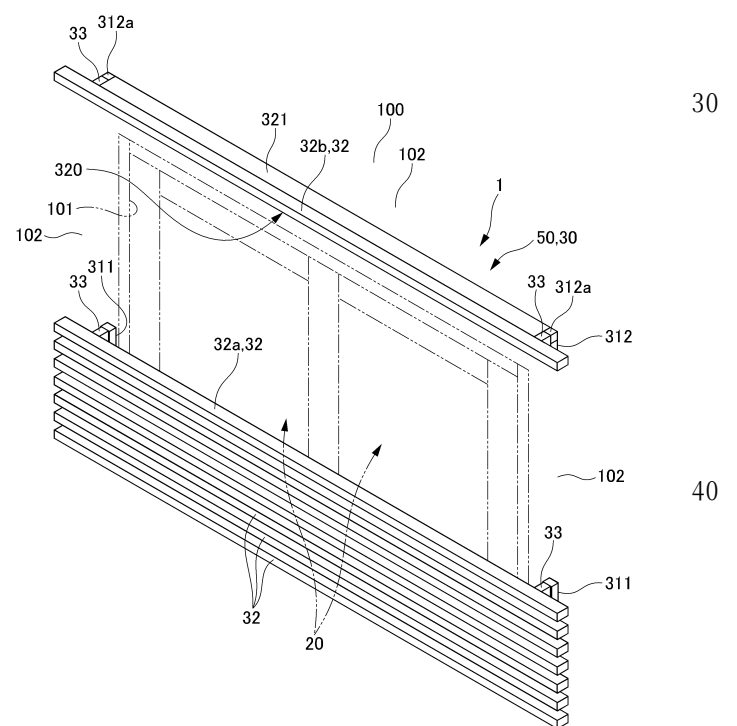
【図 4】



【 図 5 】



【 図 6 】



フロントページの続き

Fターム(参考) 2E020 BA01 BB02 BC01 CA01 CA04
2E301 JJ10 NN05